

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	倫理	
科目基礎情報							
科目番号	0006			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	創造工学科（化学・生物コース）			対象学年	1		
開設期	後期			週時間数	4		
教科書/教材	高等学校新倫理最新版（菅野覚明他著 清水書院刊）						
担当教員	齋藤 和久						
到達目標							
現代社会にも影響を与えている、哲学や倫理・宗教観および、政治・経済・社会思想の概要を理解することができる。							
ルーブリック							
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
様々な宗教の特徴を説明できる力			三大宗教や著名な民族宗教等の特徴を、何も見ずに正確に説明することができる。	仏教・キリスト教・イスラム教の教義の相違点を指摘することができる。		宗教的な考え方の特徴を、何一つ説明することができない。	
宗教が社会に及ぼす影響を読み取る力			宗教に関連した歴史上の抗争、現代社会における事件等について、何も見ずに的確に説明することができる	中東情勢など、現代社会で発生している宗教問題を指摘することができる。		宗教が一般社会に影響を及ぼし得ることを認識することができない	
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		代表的な哲学・宗教の概観。					
授業の進め方・方法		座学・講義形式。担当教員が哲学者や思想家の業績、諸宗教の特徴等について、黒板に要点をまとめながら説明する。					
注意点		少なくとも板書事項は記録しておき、各自で授業内容を再整理できるようつとめる。“総合評価”は、定期試験70%（前期中間・前期末・後期中間学年末試験各20%）、授業の出席状況や態度10%の割合で行う。					
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	宗教とは何か		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		2週	世界宗教と民族宗教		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		3週	仏教の特徴		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		4週	大乘仏教と小乗仏教		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		5週	キリスト教の特徴		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		6週	宗教改革		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		7週	イスラム教の特徴		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		8週	シーア派とスンニー派		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
	4thQ	9週	神と人間のかかわり		様々な宗教において、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。		
		10週	教祖の位置づけ		様々な宗教において、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。		
		11週	寺院勢力、教会勢力		様々な宗教において、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。		
		12週	宗教における死生感		様々な宗教において、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。		
		13週	神仏習合、廃仏毀釈		先人達の諸思想を認識した上で、自分が人としていかに生きるべきなのか考えることができる。		
		14週	十字軍の遠征、レコンキスタ		先人達の諸思想を認識した上で、自分が人としていかに生きるべきなのか考えることができる。		
		15週	ジハード、中東戦争		先人達の諸思想を認識した上で、自分が人としていかに生きるべきなのか考えることができる。		
		16週	テロリズム		先人達の諸思想を認識した上で、自分が人としていかに生きるべきなのか考えることができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3		
				世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3		
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3		
				人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3		

				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
				現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題・レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	0	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	30	0	0	20	0	0	50